

II 香川県における企業等の農業参入の状況

平成21年12月の農地法等の改正の施行に伴い、企業も農業者と同様に農地の貸借ができるようになったことや食に対する安全・安心、国産志向から、全国的に企業の農業参入に対する気運が盛り上がっています。

さらに、平成25年12月に「農地中間管理事業の推進に関する法律」が成立し、貸借手続きがスムーズに行える仕組みが構築されたところであり、今後一層の参入拡大が図れると期待しています。

なお、実際に農業に参入した企業数は、農地法改正以降、平成28年3月(見込み)で34件(経営面積58ha)となっており、農地法改正以前の参入済み企業を含めると、現在48件(同152ha)となっています。

■ 参入形態別企業内訳(平成28年3月見込み)

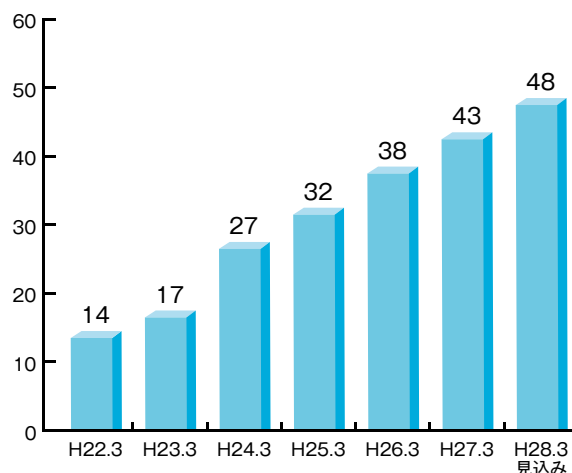
	オリーブ 振興特区 注1)	特定法人 貸付事業 注2)	農地所有 適格法人 注3)	その他 法人
件数 (比率)	4件 (8%)	7件 (15%)	14件 (29%)	23件 (48%)

注1)オリーブ振興特区:平成15年4月から構造改革特別区域法により、農業生産法人以外の法人が農地の利用権を取得して農業に参入可能となり、県内でも「小豆島・内海町オリーブ振興特区」(香川県内海町 現小豆島町)で農業参入実績がある。

注2)特定法人貸付事業:平成17年9月に農業経営基盤強化促進法の一部改正により、特定法人貸付事業として、担い手不足などで耕作放棄地が相当程度存在する地域において、農業生産法人以外の法人のリース方式による農地の利用権の取得が可能となった。

注3)農地所有適格法人:農業経営を行うために、農地の所有権の取得ができる法人で、法人形態要件、事業要件、構成員・議決権要件、役員要件がある。農地法の改正により、平成28年4月1日以降は「農地所有適格法人」に呼称変更し、それ以前は「農業生産法人」であった。

■ 農業参入した企業数(香川県)



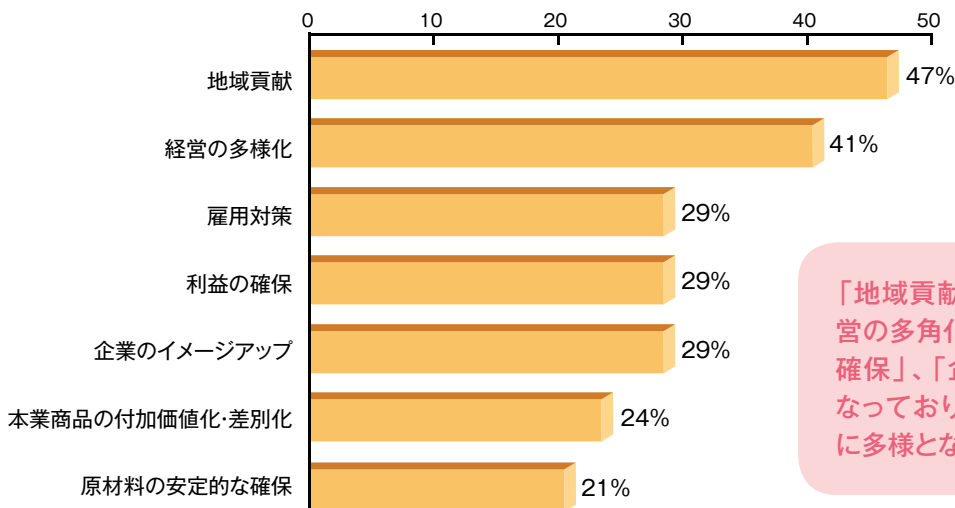
■ 業種別参入企業内訳(平成28年3月見込み)

	建設業	製造業	卸売・小売業	飲食店・宿泊業	運輸業	NPO	その他
件数(比率)	15件(32%)	14件(29%)	3件(6%)	2件(4%)	2件(4%)	1件(2%)	11件(23%)

■ 取組品目別参入企業内訳(平成28年3月見込み)

	水稻・麦類	水稻+野菜	野菜	果樹 (オリーブ以外)	オリーブ	その他
件数(比率)	5件(10%)	5件(10%)	10件(21%)	7件(15%)	16件(34%)	5件(10%)

■ 農業参入の目的(農業参入企業に関する経営状況調査)[県農業経営課調べ、平成27年6~8月、34社]



「地域貢献」が最も多く、次いで「経営の多角化」、「雇用対策」、「利益の確保」、「企業のイメージアップ」となっており、農業参入の目的は非常に多様となっています。

農業参入企業による取組事例

[平成28年3月現在の内容です。]

徳寿工業(株)

一般法人

平成25年4月参入/社員2名・雇用12名/高松市:設備施工業

主な作目・経営規模
トマト(施設) 32a

目的・取組経緯

本業商品であるトマト栽培プラントの販売促進を図るとともに、経営の多角化や雇用対策、さらには企業のイメージアップを図るために、農業参入した。

事業内容等

自社製のトマト栽培プラントの活用により、大玉で高糖度なトマトの多収生産に取り組んでいる。また、生産物は地元スーパーマーケットなどと直接取引することにより、販売価格の安定化を図っている。さらに、近隣農地の草刈りなども行い、周辺地域との信頼関係を積極的に構築している。



日笠工業(株)

農地所有適格法人

平成24年4月参入/社員2名・雇用7名/さぬき市・三木町:土木建設業

主な作目・経営規模
水稻 20ha(うち飼料用米10ha)、小麦28ha、作業受託10ha

目的・取組経緯

本業の不調により将来性に不安を感じていた中、個人で栽培していた水稻の耕作依頼が急増したことに着目し、今後も耕作依頼が増加することや規模拡大により、安定した収入が見込めることから、企業として本格的に農業参入した。平成25年3月にはさぬき市の認定農業者に認定されるなど、地域の土地利用型農業の重要な担い手として位置付けられている。

事業内容等

水稻・麦栽培のみに特化した営農を展開し、農作業受委託を組み合わせ、年間を通じた作業体系をとることにより、農地と設備を効率的に活用している。また、農地機構を活用し、積極的な農地集積にも取り組んでいる。今後は、さらなる農地集積を図るとともに、小麦「さぬきの夢2009」や飼料用米の作付拡大を目指す。



さんわ農夢(株)

農地所有適格法人

平成23年4月参入/社員4名・雇用3名/三豊市:土木建設業

主な作目・経営規模
さつまいも 0.5ha、ブロッコリー 4ha

目的・取組経緯

土木事業が減少する中で、新規事業による経営の安定を図るとともに、香川大学と連携して生産に取り組み始めた竹質チップを活用した堆肥の特性について自ら実証するため、農業参入した。地域保全の観点から、地区内の休耕地や耕作放棄地を活用した取組みを行っている。

事業内容等

国・県の補助事業を活用して耕作放棄地の再生作業に取り組むとともに、農地機構を活用し、耕作面積の拡大を図り、経営の安定化に努めている。また、県の6次産業化支援事業を活用して、サツマイモのペーストを使った菓子の開発を行い、販売展開を行っている。これにより、サツマイモの売上拡大を図るとともに、雇用の促進、地域活性化の推進を行っている。

